

[ここに入力]

粕谷和夫の観察日記より。題字の写真は、ウグイスカグラです。鶯がさえずりだす今頃に開花します。八王子小宮公園でウグイスのさえずりを聞きながら撮りました。5月になると、茱萸（グミ）のような赤い実になり、美味しいです。

紅葉台



新聞

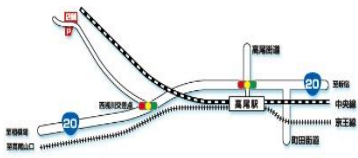
第73号

2023年

4月15日

発行人：関谷 孝

するさし（摺差）の豆腐



するさしの豆腐店は別名は(有)峯尾豆腐店 木下沢梅林(こげさわばいりん)に行ったことがありますか?ここは、京王線の

ポスターに必ずと言っていいほど美しい梅林が紹介されています。小仏川の上流、小仏峠の手前から中央高速道路に向かって広がる梅林です。山一面が様々な種類の梅の木で覆われています。まるで梅の山の雲海ようです。毎年3月中旬になると『高尾梅郷まつり』が開催されます。日差しも暖かくなり、陽気に誘われてここまでの散歩を楽しみたくになります。この辺りは、旧甲州街道沿いでかつては旅の人が往来していました。高尾山も今の「京王線高尾山口」が出来る前は、裏高尾から登っていたようです。この道沿いには、梅林が小仏川に沿ってあちこちたくさん点在しています。高尾梅郷は、昨年紹介したので、今回は、この道の途中にある有名な豆腐屋さん。



「摺差(するさし)の豆腐」を紹介します。4月からは毎週日曜日が定休になるようです。午前8時から午後18時が営業。

この名物は、もちろん国産大豆を使った新鮮出来立ての寄せ豆腐です。人気があるのは「おからドーナツ」でしょうか。5個450円。友人に贈ると皆さん美味しいと評判です。おからなのでヘルシー感があります。つい、買ってしまいます。最近は、「おからのかりんとう」や檜原村産の蒟蒻も買ってみました。食感が軽くて豆腐の風味がしておいしいです。町の豆腐屋さんが年々少なくなっているのでも今では貴重です。高尾山系の豊富で良質な地下水の恵みに育まれた豆腐は濃厚で風味があって美味しいですね。よく上空をトビが舞っています。聞くところによると、以前余ったおからをあげていたそうです。それもあってか、おからを狙って食べに来るようです。外でドーナツを食べようとすると上空にたくさんのトビの群れが現れてびっくりしたことがあります。ですからお土産に持って帰るのを勧めます。「花より団子」は、生き物に共通するようです!このするさしの豆腐やおからドーナツは高尾駅北口すぐ左手の自然派カフェ「一言堂」でも売っていました。【文責 関谷】



街かど科学の「恐竜の卵」から生まれた

不思議大好き 加藤

「街かど科学」の様子を昨年紹介しました。(紅葉台新聞57号)嬉しいことに、「恐竜の卵」の続きの話があります。すぐに、「卵を見たい」「教えてほしいとの問い」皆さんからの投稿をお待ちしております。新聞を通して交流できるのも大切なことです。これからもご愛読いただけるよう工夫をしていきます。



合わせがありました。その方に卵の話をするると「それは面白い」と大変興味を持ってくれました。その後、地域のサロン(高齢者のための集い)で紹介したいと楽しんでくれました。

また、姪の子どもに見せると真っ先に興味を示しました。家族も不思議に思っていると、卵の音を聴いたりどうやって作ったりしたかを家族に得意げに話していました。それも、いつもはおとなしい姪の子どもが生き生と説明している姿に驚きました。

放課後の学習教室で子供たちに銀色に光る卵を見せると「これなに」「なんだなんだ」「ぴくぴく動いている」「生きているの?」「磁石が入っているのかな」「電池かな」「スイッチないよ」と思いつくまま言い合いました。「生きているから優しくね」と言いながら子供たちの手に乗せてみました。感触を確かめる子供たちからも「そうっと、そうっとだよ」「中に何か入っている」「それが動くんだ」「でもどうやって膨らんだの」と様々な考えがたくさん出た後で種明かし。卵の作り方を教えました。自分でも作ることが出来たのがうれしくて、早速保護者に見せて反応を楽しんでいる様子でした。翌週、保護者からも「作ってみた」「うまくできなかったから一緒に考えてほしい」等、不思議な卵づくりは、驚きと喜びを伴って家庭へと広がっていきました。

おばさんたちの食事会で紹介したところ、おばさんだって不思議な卵にくぎ付けでした。目を丸くしながら作った卵がまわりまわってある学級に届きました。「キヤー!なにこれ」「動いてる」「怪獣の卵?」「虫が入っているの」「繭になるのかな」と大騒ぎ。その日から子供たちは、登校すると「おはよう」「元気」と卵に声を掛ける日々。休み時間にも覗き込み「寝ているのかな」どう見てもアルミホイルなのにこの動きは生きている証拠です。子供たちは疑いながらも「アルミちゃん」と呼びながら見守り続けました。そんな中でも一瞬目を輝かせる子がいました。ものづくりが得意なその子は箱でアルミちゃんのお家を作ってあげました。コミュニケーションをとるのが難しい子でしたが、アルミちゃんとの出会い、家を作るなど進んで関わる中で自分の思いをことばにするようになったといいます。その話を聞いて感動しました。

不思議な卵は本当に不思議な力を持っているのです ●

粕谷和夫の観察日記 オオタカ



3月湯殿川定期カウント中。白旗橋手前でコガモの狩に失敗し、川のコンクリート堤防のようなところにしばらく止まっていた。距離が30,40mの近さでした。こんな近くでじっくり見られるのは珍しいです。